

京都大学国際産官学連携ポリシー

京都大学は、「世界的に卓越した知の創造を行うとともに、世界に開かれた大学として、地域との連携・国際交流を深め、自由と調和に基づく知を社会に伝え、地球社会の調和ある共存に貢献する」ことを基本理念として掲げている。また本学は、この理念のもとで国際戦略を策定するとともに、産官学連携ポリシーを定め、国際的な産官学連携活動を通じた本学の教育・研究・社会貢献活動の一層の発展と人材育成に資することを目指している。

これらミッションの具現化を図るため京都大学国際産官学連携ポリシーを以下のとおり定め、本学が産官学連携を国際的に展開する上での基本的な姿勢および方針を示す。

基本姿勢

1. 国際産官学連携活動による教育・研究の発展

国際産官学連携活動を通じ、人的交流による相互理解の醸成や異文化・異分野との融合による研究活動の新たな展開、それに伴う教育の活性化、国際的な人材育成を推進する。

2. 研究成果の地球社会への還元への推進

国際産官学連携の推進により、より高いレベルの知と社会的価値を創造し、その結果を還元することにより、地球社会への貢献を推進する。

基本方針

1. 全学的・組織的支援

産官学連携本部(SACI)および産官学連携センター(ICC)は、国際交流推進機構と連携しつつ、研究者および研究プロジェクトの国際産官学連携活動を全学的・組織的にサポートし、当該連携活動から生じる知的財産の戦略的確保や技術移転促進などの支援を行う。

2. 人材の育成・確保

国際的産官学連携活動に対応可能な、コーディネータや法実務家などの専門人材や教職員を育成・確保し、内部人材の国際化を図る。

3. 国際的ネットワークの形成

海外の連携大学を軸に国際連携拠点を形成し、本学の国際交流事業や同窓会組織などと連携し、海外の大学や技術移転機関、民間企業などとの継続的で実効的な人的ネットワークを構築する。

4. 情報収集・発信

海外拠点やネットワークなどを活用し、情報収集を行うとともに、海外に向けて研究シーズなどの情報発信を行うことにより、広く世界に本学の取り組みを発信する。

5. 知的財産の戦略的な確保と技術移転

国際的な知的財産の戦略的確保や技術移転活動を進めるため、知的財産の管理・活用に関する取扱いを定め、国内外の技術移転機関、企業などとの連携やネットワークを活用し、費用対効果にも配慮しながら、研究成果の効果的な社会還元に努める。

6. 推進・支援体制の強化

国際的産官学連携活動の推進体制を確立するとともに、国内外の専門家ネットワークなどと連携しつつ、法令遵守、国際契約実務、リスク管理、紛争の回避及び解決などに関し、適正かつ柔軟に対応できる体制の強化を図る。

なお、本ポリシーの運用を図る上で、必要な具体的事項については別途定める。